

インターネットによる防災情報の入手先

有田市の避難所、津波や雨量・河川水位等の情報は、パソコンや携帯電話を使ってインターネットからも確認することができます。

有田市ホームページ 有田市の避難所や防災に関する情報を提供
<http://www.city.arida.lg.jp/>

気象庁 全国の気象や災害、洪水予報などの情報を提供
<http://www.jma.go.jp/jma/>

和歌山地方気象台 気象に関する警報・注意報を発表
<http://www.jma-net.go.jp/wakayama/>

和歌山県砂防課 土砂災害警戒情報などの情報を提供
<http://kasensabo01.pref.wakayama.lg.jp/new/>

川の防災情報 全国の雨量や水位などの情報を提供
<http://www.river.go.jp/>

防災わかやま 和歌山県内の災害・防災・避難情報などを提供
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/bousai/index.html>

防災わかやまメール配信サービス(無料)
 防災情報をメールでお知らせするサービスです。登録は次のアドレスへ空メールを送信してください。
regist@bousai.pref.wakayama.lg.jp



いざというときの連絡先

有田市役所
 ☎ 0737-83-1111 (代表)

有田市消防署
 ☎ 0737-83-0119

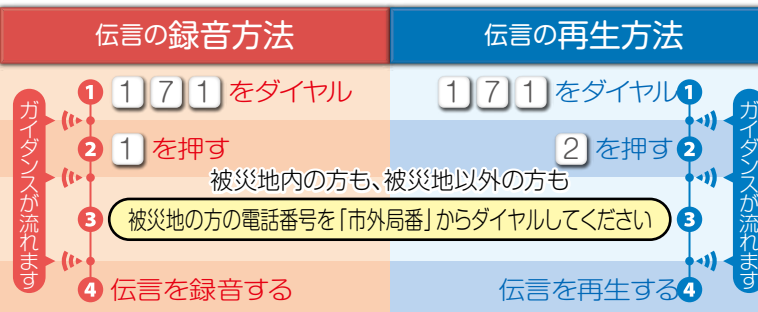
有田警察署
 ☎ 0737-83-0110

災害用伝言サービス

大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が数日間続くことがあります。このような場合は、「災害用伝言ダイヤル」・「災害用伝言板サービス」・「災害用ブロードバンド伝言板(web171)」が開設されます。

災害用伝言ダイヤル

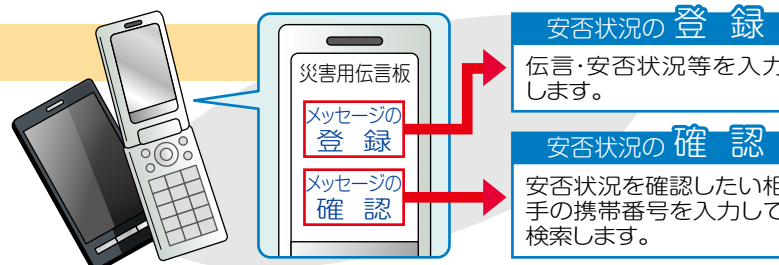
このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間で、伝言の登録・再生をすることができます。



体験利用日
 ●毎月1日・15日 ●1月1～3日
 ●防災週間 ●防災とボランティア週間

災害用伝言板サービス

携帯電話を使って被災者は安否状況の伝言を登録し、外部の人がその伝言を確認できます。携帯電話のトップメニューから「災害用伝言板」を開き、伝言の登録・確認を行います。



災害用ブロードバンド伝言板(web171) <https://www.web171.jp/> 左記URLへアクセスし、案内に従って操作してください。

インターネットを利用して被災者の安否確認を行う伝言板です。伝言情報の登録・閲覧が可能です。

大切な命を守るために 災害に備えよう!



津波避難訓練を行う保田保育所の園児たち

家族で確認しながら書き込む

●家族との連絡方法

① _____
 ② _____
 ③ _____

●身近な避難先(地震)

場 所 _____

●身近な避難先(洪水)

場 所 _____

●家族の集合場所(避難所)

×モ _____

わたしのきろく

本人氏名 _____
 _____ 男・女
 住 所 _____
 電 話 _____
 生年月日 _____ 血液型 _____
 持病/アレルギー/常備薬 _____
 健康保険番号 _____
 その他 _____

かぞくのきろく

氏 名 _____ 男・女
 携帯電話 _____
 メールアドレス _____
 職業・学校 _____
 生年月日 _____ 血液型 _____
 氏 名 _____ 男・女
 携帯電話 _____
 メールアドレス _____
 職業・学校 _____
 生年月日 _____ 血液型 _____

災害に強いまちづくり

近年、東日本大震災や台風、ゲリラ豪雨による洪水被害など、日本各地で自然災害が多く発生しており、日頃から災害に対する備えを進めておく必要があります。

防災・減災の基本は、行政が取り組む「公助」とともに、一人一人が自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」を高めることとされています。

このパンフレットを活用し、いざという時に慌てず行動できるように、家族や地域で災害に対する備えを行いましょう。

自助

自分で自分や家族を守る



☑ 日頃から家族で話し合い チェックしておきましょう

- 自宅の耐震診断・補強、家具の固定
- ハザードマップを使って地域の特性や避難先の場所などを確認
- 食料と水の備蓄
- 非常持出品の準備と保管場所
- 災害時の連絡方法

共助

地域や事業者が助け合って守る



- 地域の防災活動・避難訓練など
- 皆でまちの安全点検
- 事業者と地域の連携
- 災害時には助け合って救出、初期消火

公助

行政による防災・減災対策

- 公共施設を整備・拡充し、災害に強いまちづくりを推進
- 自助・共助を支援し、地域の安全を確保する



地震・津波に備えよう

和歌山県で考えられる地震

和歌山県は昔から約90年から150年周期で繰り返し発生している南海トラフの地震により、過去にも大きな被害を受けてきました。南海トラフ巨大地震が発生した場合、津波などにより、県内で約9万人が死亡するという被害が予想されています。

南海トラフで発生する地震

南海トラフ……駿河湾から九州沖合の海底に伸びている、深い溝状の地形のこと。

想定地震

東海・東南海・南海 3 連動地震
● マグニチュード 8.7

南海トラフ巨大地震
● マグニチュード 9.1

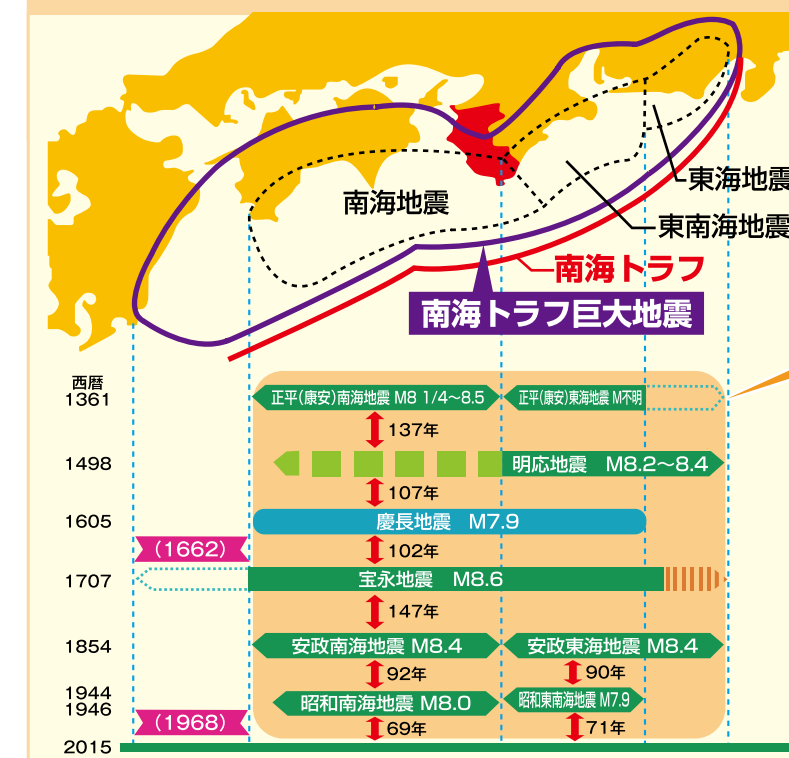
どんな地震？

南海トラフ沿いの3つの領域(東海・東南海・南海)においては、約90年から150年周期で繰り返し津波をともなう地震が起きてきた。3つの地震が同時に起こることを3連動といい、特に大きな被害が予想される。

東海・東南海・南海地震の震源域より、さらに広域(日向灘を含む)の震源域で地震が連動した場合、最大クラスの地震のこと。実際に発生したことを示す記録は見つからず、発生頻度は極めて低い。仮に発生すれば極めて甚大な被害が予想される。

※マグニチュード(Mと表記)が1大きくなると地震エネルギーは約32倍、2大きくなると約1000倍となる。

● 南海トラフの地震震源域と発生状況



東海・東南海・南海地震は繰り返し発生している

● 南海トラフの地震の長期評価 平成27年1月現在(地震調査研究推進本部発表)

地震規模	M8~9クラス
30年以内の発生確率	70%程度

南海トラフ巨大地震 最大クラス M9.1 は…

- 過去数千年間に発生したことを示す記録は見つかっていない。
- 繰り返し起きていた大地震(南海地震等)に比べ、発生頻度は一桁以上低いと考えられる。

- 確実な震源域
- 確実視されている震源域
- 可能性のある震源域
- 説がある震源域
- 津波地震の可能性が高い地震
- 日向灘のプレート間地震(M7クラス)

有田市で想定される被害

南海トラフ地震 有田市の被害想定

	東海・東南海・南海三連動地震	南海トラフ巨大地震
マグニチュード	8.7	9.1
震度	6弱	7
死者	180人	2,200人
全壊家屋	420戸	5,400戸
避難者数	3,800人	11,400人

有田市においても、津波が最速で約33分で到達、最大津波高も10メートルの地域もあり、甚大な被害が想定されています。被害を最小限にとどめるには、住民のすばやい避難行動が最も重要になってきます。

「長く揺れたら逃げる」
「津波警報等が出たらすぐに逃げる」

この徹底をはかってください。

震度による揺れと被害

マグニチュード：地震そのもののエネルギーの大きさ 震度：それぞれの場所での揺れのはげしさ

震度
5強



非常な恐怖を感じ、多くの人が行動に支障を感じる。多くの壁石が倒れ、自動車の運転が困難、重い家具が倒れることもあり、変形によりドアが開かなくなる。

震度
6弱



立っていることが困難になる。家具の多くが転倒し、開かなくなるドアが多い。かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下し、耐震性の低い住宅では倒壊するものがある。

震度
6強



立っていることができません、はわないと動くことができません。多くの建物で壁やタイルや窓ガラスが破損、落下し、戸が外れて飛ぶこともある。耐震性の低い住宅ではほとんど倒壊する。

震度
7



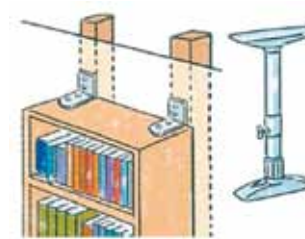
揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。ほとんどの家具が大きく転倒し、飛ぶものもある。耐震性の高い住宅でも、傾いたり、大きく破壊するものがある。

各家庭で取り組む防災活動(自助)

家庭でできる防災対策が、地震の際に大きな力を発揮します。皆さんの家は大丈夫ですか？



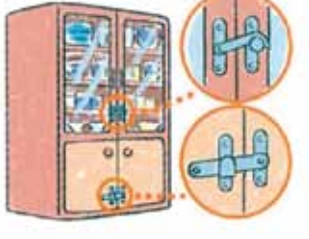
①住宅の耐震診断、耐震補強をする



②家具は柱や壁などに金具等で固定する(固定する際は強度のある下地材などに)



③テレビや冷蔵庫を固定する(テレビ台も可能な限り床、壁に固定)



④食器棚などの扉に、開き防止・飛び出し防止を行う



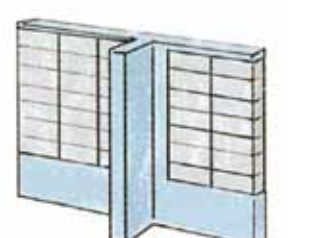
⑤ガラス製品(窓、家具)に飛散防止フィルムをはる



⑥寝室や出入口付近に家具を置かない、または、寝ている上に倒れてこないよう配置を工夫する



⑦寝室には脱出用のはき物やラジオを用意しておく

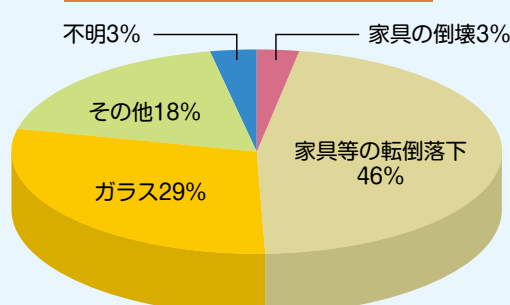


⑧危険なブロック塀の安全点検・対策をする

が非常に重要で、がれきに閉じ込められたり、転倒した家具でけがをして動けなくなったりすると、後から来るであろう津波や火災に巻き込まれるかもしれません。自分が無傷であればこそ、避難することも、家族や近所さんを助けることもできるのです。

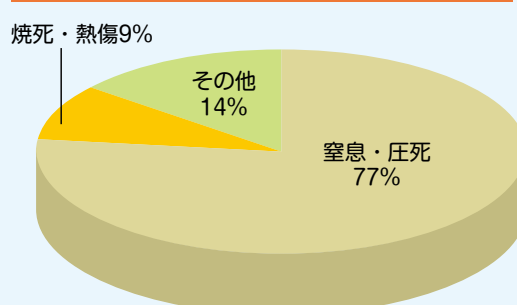
阪神淡路大震災では、地震に対しては、**つづれない家に住むこと**、**家具固定を徹底すること**が非常に重要で、がれきに閉じ込められたり、転倒した家具でけがをして動けなくなったりすると、後から来るであろう津波や火災に巻き込まれるかもしれません。自分が無傷であればこそ、避難することも、家族や近所さんを助けることもできるのです。

建物内でのけがの割合



日本建築学会「阪神・淡路大震災住宅内部被害調査報告書」より

阪神・淡路大震災における死亡割合

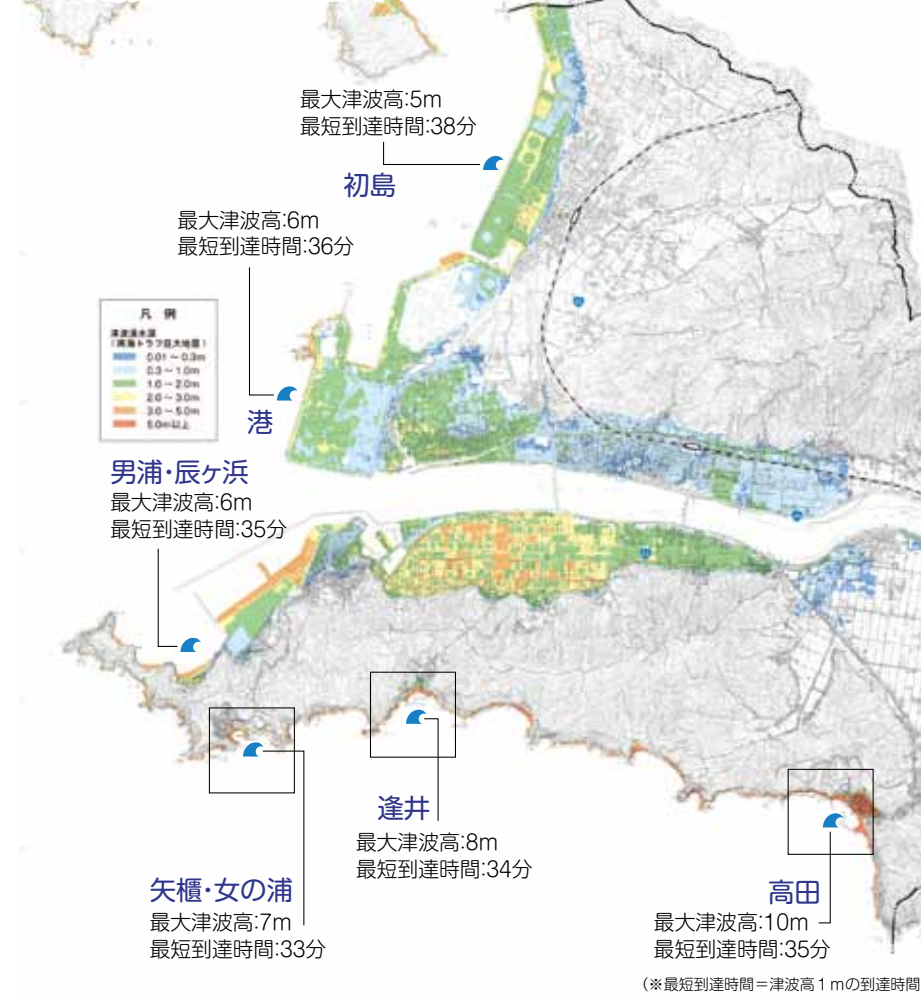


厚生省大臣官房統計情報部「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況(1995.12)」より



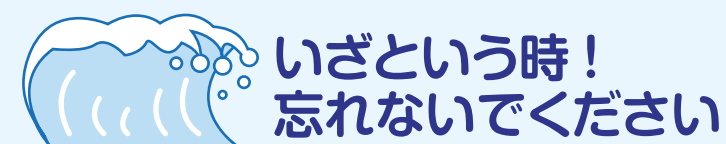
想定地震による津波の最大津波高・到達時間

南海トラフ巨大地震



津波警報	予想される津波の高さ		とるべき行動
	巨大地震の場合の表現	数値での発表(発表基準)	
大津波警報	巨大	10m超(10m<高さ)	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。 ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう!
		10m(5m<高さ≤10m)	
		5m(3m<高さ≤5m)	
津波警報	高い	3m(1m<高さ≤3m)	津波防災啓発ビデオ「津波からいける」(気象庁)の1シーン
津波注意報	(表記しない)	1m(20cm≤高さ≤1m)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。

津波からの避難



津波避難3原則

- ① 想定にとらわれない
- ② 最善を尽くせ
- ③ 率先避難者になれ



片田敏孝 群馬大学教授監修

津波について正しい知識をもちましょう!

- 津波は繰り返しやってくる。第一波が最大とは限らない。(第一波が小さくても油断しない、引いても戻らない)
- 津波は引き波から始まるとは限らない。
- 30センチの津波でもまきこまれるおそれがある。
- 弱い地震でも大きな津波を引き起こすことがある。
- ゆったりとした長い揺れが続く場合は津波を引き起こす海溝型地震の可能性を考え、避難する。(東日本大震災では3分以上も揺れが続いた地域もある)

津波警報などが発表されたら必ず避難を!

- あらかじめどこへ避難するか調べておきましょう。(避難カードを活用ください)
- ラジオ・テレビ・メール・防災無線などから正確な情報を素早く入手できるようにしましょう。
- 東日本大震災では浸水想定地域を大きく越える津波がやってきました。ハザードマップを過信せず、できる限り安全な場所を目指して避難しましょう。
- 空振りを恐れず、率先して避難しましょう。

一人ひとりが、命を守る正しい知識と姿勢を身に付け、津波による犠牲者ゼロを目指し、防災意識を高めていきましょう

もしも地震が起こったら ～災害時の行動をイメージしよう～

緊急地震速報

緊急地震速報は、最大震度 5 弱以上が予想されたときにテレビ・ラジオなどで報知音とともに放送されます。

発生

● 落ち着いて、自分の身の安全を確保

机の下などへもぐり、頭部などを保護。
机の脚はしっかりつかむ。



● 揺れが収まったら火の始末をし、元栓を閉める

※揺れている最中の消火はたいへん危険！
(通常はマイコンメーターが装備されており震度 5 強相当以上の揺れに感知し、自動停止します)

● ドア、窓を開けて脱出口を確保

【津波・がけ崩れの危険地域はすぐ避難】

● 家族の安全を確認

● 隣近所で声を掛け合う

特に一人暮らしの高齢者などの安否を確認。



● 初期消火

大声で知らせ、協力して消火器、バケツリレーなどで消火する。

● 外へ逃げる時はあわてずに

瓦やガラス・看板などの落下物に注意！

- ・ラジオなどで正しい情報を確認。
- ・避難は原則徒歩で行う。



● 避難後は協力して消火・救出・救護活動を行う

助け合いの心を持って。壊れた家には入らない。

● 生活必需品は備蓄でまかなう

日頃から 1 週間程度の飲料水と食料の備蓄をしておく。

● 避難生活では、集団生活のルールを守る。助け合いの心で！

いざその時に備え
家族で事前に話し合しましょう

ポイント1

どこへ避難するか

・緊急避難先と避難所を確認する
いざという時、家族がいっしょでなくてもそれぞれに素早く適切に避難できるようにしましょう。

緊急避難先とは

避難目標地点、裏山、高台、公園など、一時的に身を守るため緊急避難する場所

避難所とは

学校、公共施設など災害により一定期間避難生活する施設

ポイント2

避難経路は安全か

・自宅付近の危険箇所を確認し
マップ化

看板やガラス片などの落下物、ブロック塀の倒壊などの危険箇所を事前に予測し、より安全な避難経路について、地図に記入しながら話し合しましょう。

その他

- ・家族内の役割分担
- ・家族間の連絡方法
- ・避難バッグの置き場
- ・室内の安全点検

についても話し合ってください。



風水害に備えよう

近年、全国各地で局地的な豪雨が頻発しています。
有田市においても、台風や豪雨による河川の氾濫や道路の冠水、家屋の床上・床下浸水といった被害が毎年のように発生しています。
自分が住んでいる地域がどのような危険性のある場所なのか、再確認しておきましょう。

画像提供：新宮市

雨の強さと降り方(1時間雨量)

※気象庁資料参照

やや強い雨 10～20mm未満	強い雨 20～30mm未満	激しい雨 30～50mm未満	非常に激しい雨 50～80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
地面一面に水たまりができ、話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。	土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。小河川ならはん濫、また、がけ崩れの心配もあります。	激しい雨。山崩れ、がけ崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。	滝のように降りあたりが水ぶきで白っぽくなります。屋内で寝ている人の半数くらいが気づくほどの激しい雨で多くの災害が発生します。	息苦しくなるような圧迫感があります。大雨による大規模な災害が発生するおそれ強く、厳重な警戒が必要です。

大雨・洪水に関する注意報・警報

下記のような場合、気象庁から「注意報」「警報」が発表されます。さらに、警報の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報」よりもはるかに高い危険度
大雨 大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあると予想したときに発表。	大雨 台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。
洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	洪水 大雨、長雨、融雪などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあると予想したときに発表。	「洪水」は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

河川のはん濫発生情報

川の水位が上昇し、洪水のおそれがあるとき、国土交通省から河川の水位情報が発表され、報道機関などを通じて一般に周知されます。河川の水位に関する情報は危険に応じて、水位名称と合わせて伝達されます。



土砂災害の種類と前兆現象

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ、「がけ崩れ」や「土石流」、「地すべり」といった土砂災害を引き起こす可能性があります。これらが発生するときには、多くの場合、何らかの前兆現象が現われます。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人にも知らせ、速やかに安全な場所へ避難してください。

土砂災害の種類には、大きく分けて3つのタイプがあります。自分の周りの土砂災害危険箇所がどのタイプであるか確認しておきましょう。

がけ崩れ	土石流	地すべり
地中にしみ込んだ水分により、急な斜面が突然崩れ落ちる現象です。突然起きるため、家の付近で起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高くなります。	長雨や集中豪雨などによって、山や川の石と砂が水と一体となって一気に下流へ押し流される現象です。	大雨や長雨等により雨水が地面にしみ込み、水の力によって持ち上げられた地面が広い範囲にわたりゆっくりと動きだすものをいいます。

土砂災害から身を守るための3つのポイント

- ① 住んでいる場所が「土砂災害危険箇所※」かどうか確認する。
- ② 雨が降り出したら土砂災害警戒情報に注意する。
- ③ 早めの避難が重要。

※土砂災害が発生するおそれのある箇所。

土砂災害警戒情報

土砂災害警戒情報は、大雨警報の発表中に、土砂災害発生の危険度が高まったとき、和歌山県と和歌山地方気象台が共同で作成・発表する情報です。

土砂災害警戒情報は、市町村長が避難勧告を発令する際の判断材料となる重要な情報です。土砂災害警戒情報が発表されたら、土砂災害に厳重に警戒し、自主避難の判断を行ってください。また、土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、避難行動をとってください。

避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また災害の危険性が想定された場合には、情報を入手して、早めの避難を心がけましょう。

	状況により、すばやく避難しましょう 避難情報などが発表されていなくても、雨の状況などから判断し、自主的に避難しましょう。
	外出中の家族には連絡メモを残そう 外出中の家族には、「どこどこへ避難する」といったようなメモを残しておくといいでしょう。
	住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう 高齢者や子どもは、事前に住所、氏名、連絡先などを記載したメモを用意し、身につけて避難しましょう。
	集団で避難しましょう 単独での行動は避け、近所の人たちと集団で決められた場所へ避難しましょう。
	車での避難は控えて 車は、約30cmの浸水で走行困難になります。車での避難は避けましょう。
	安全なルートで避難 避難所への経路は、川べりや地下歩道などは避け、できるだけ安全な広い道を選びましょう。
	持ち出し品は最小限に 非常持ち出し品はリュックサックにまとめ、両手が自由に使えるようにしましょう。
	避難所では係の人の指示に従いましょう 避難所に着いたら、係の人の指示に従い、住所・氏名を報告しましょう。

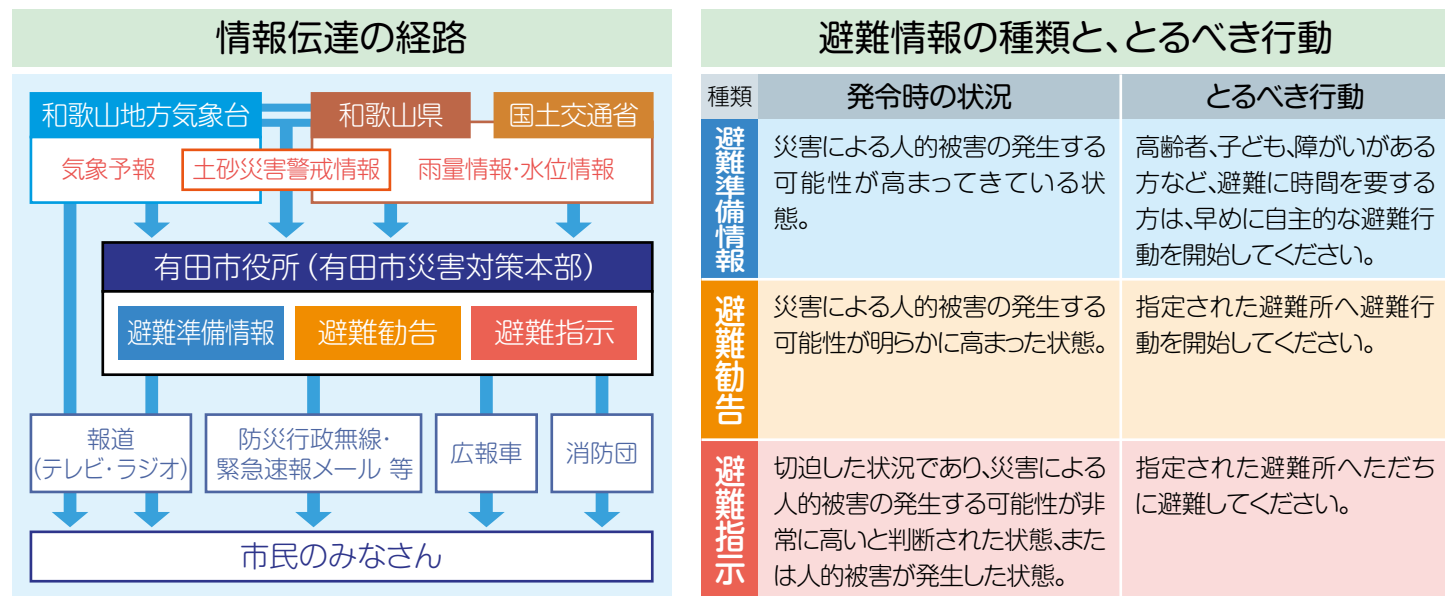
水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動(水平避難)だけでなく、近隣ビルの高層階や自宅の2階といった高い場所への移動(垂直避難)を行い、救助を待つという判断も必要です。

<p>危険な避難</p>	<p>避難場所への避難(水平避難)</p>	<p>高所への避難(垂直避難)</p>
--------------	-----------------------	---------------------

有田市の防災体制と避難情報

災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには『災害対策本部』を設置し、対応します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発令します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。



非常持ち出し品の準備

災害が発生したときは、すぐに避難しなければなりません。避難する場合に備えて、リュックサックなどに必需品をまとめ、持ち出しやすい場所に保管しておきましょう。

食品・水	救急・安全関係	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水 (500mlペットボトル程度) <input type="checkbox"/> 乾パン・クラッカー・缶詰など、火を通さなくても食べられる物	<input type="checkbox"/> 救急医薬品 (絆創膏・傷薬・包帯) <input type="checkbox"/> 常備薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット (防災ずきん)	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> 権利証書 <input type="checkbox"/> 免許証 <input type="checkbox"/> 健康保険証
日用品	衣類など	その他
<input type="checkbox"/> 筆記用具 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ビニール袋 <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> ナイフ、缶切り	<input type="checkbox"/> 衣類 (下着・上着) <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> 毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手	<input type="checkbox"/> 洗面用具 (歯ブラシ・石けん) <input type="checkbox"/> ほ乳びん <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> メガネ

備蓄品の準備

災害に備え日頃から家庭で、最低でも3日分、できれば1週間分ほどの飲料水や食料を確保しておくことが大切です。また、定期的に古い備蓄品から消費し、新たに補充する「循環備蓄」で、無駄を出さず、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎます。



ARIDA 有田市

有田市メール配信サービス

有田市では、市の情報をメールで無料配信しています。
4つの配信ジャンルの中から必要な情報と地区を選択して登録できます。

防災情報 警報、災害、避難などの防災情報	行政情報 各種施策、手続き、検診、啓発などの行政情報	防犯情報 不審者、行方不明者、事件などの防犯情報	イベント情報 まつり、講演会などのイベント情報
--------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------

登録方法 1 (携帯電話、スマートフォンから登録する場合)

カメラ機能付携帯電話で右の2次元コードを読み取り、手順に従って登録して下さい。

登録方法 2

下記メールアドレスに空メールを送り、返信されたメールに記載されている手順に従って登録して下さい

t-arida@sg-m.jp

登録前にご確認をお願いします

- 迷惑メール設定をしている場合は、事前に「sg-m.jp」のドメインからの受信を許可する設定にしてください。
- パソコンから登録する場合は、パソコン用登録画面アドレスから登録ください。

(登録画面アドレス) <http://service.sugumail.com/arida/member>

(コールセンター : 0120-670-970)

dボタンで防災情報 テレビ和歌山データ放送

ご自宅のテレビで簡単に気象情報や防災情報がご覧いただけます。

テレビリモコン操作方法
あんぜん情報24時の場合

ステップ1
5チャンネルを選択してね!

ステップ2
dボタンを押してデータ放送に切り替わるまで待ってね!

ステップ3
矢印ボタンで「あんぜん情報24時」を選んで

ステップ4
決定ボタンを押そう!

ステップ5
矢印ボタンや色ボタンで、見たいところをチェックしてね!

ステップ6
dボタンをもう一度押すとテレビ画面に切り替わるよ!

ニュースや天気予報を待たなくてもテレビリモコンの「d」ボタンを押すだけで、ほぼ24時間最新の情報を見ることが出来ます。

ボタンを押すと!

【お天気情報(雨雲レーダー)】

【市町村情報】

【河川水位情報】

【雨量情報】

dボタン
色ボタン
矢印・決定ボタン

dボタンの位置・表記は機種によって異なります。